



女も男も 自分らしく

No. 12

輝け！なんぶ！

隔月でお知らせしています、「輝け！なんぶ！」No. 12は
「学校」がテーマです。ぜひ、ご覧ください。

「男女共同参画社会基本法」が制定されてから20年が経ちました。まだ社会には、「性別役割分業」の意識があり、男女差がなかなか埋められないのが現状ですが、「教育の現場」においては「男女の枠」に分けない実践が意識的に行われています。いくつかの例を紹介します。

取組事例

- ・名簿は男女に分けず、五十音順になっている。
(峡南地域の小中学校はすべてが五十音順になっている。)
- ・集会等での並び方も、男女の列を分けずに混ざって並ぶ。
- ・児童会、生徒会の役員に男女枠を設けない。
- ・男子「～くん」、女子「～さん」と分けずに、男女共に「～さん」と呼名する傾向になっている。
- ・「子供」の「供」は「お供」、「供する」という意味につながることに配慮して表記を「子ども」にしている。
- ・体操着の色を男女に分けない。ラベル等の表示も色分けしない。
- ・作業活動の際「男子は〇〇」「女子は△△」と分けずに、混ざって活動する。
- ・PTA役員も男女枠にこだわらない傾向にある。

このような日常習慣が
積み重なると…

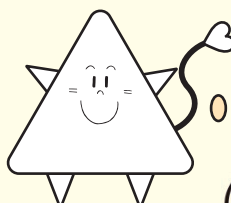


取組結果

- ◎修学旅行や様々な行事で自主的にグループを作る際に、女子だけ・男子だけに偏ることがない。



ランドセルも男の子は黒、女の子は赤という定番ではなくなってきました。



さんかくーん

「女の子らしさ」「男の子らしさ」を無意識に決めつけてしまうことがあるけど(ジェンダー)、学校は、それに意識的に対応しているんだね。(ジェンダーフリー)「教育」って大事だね!



～南部町男女共同参画審議会～

